

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：一般財団法人 ダイバーシティ研究所

1. 事業の概要

事業名称	生活者としての外国人の社会参画を目指す漢字学習支援
事業の目的	地域に根ざして生活する外国人が文字を獲得することによって、より広く、より深く社会に参加していき、社会の多様性に資することを目標として、漢字学習支援を行う。 日常生活においては、文字を通して情報を得ることが多くあり、また、書面による意思表示を求められる機会も多い。ゆえに、十全な社会参加を可能にするには、必要最低限の文字が認識でき、理解でき、使用できるようになるための文字教育が不可欠である。これは基礎教育として公的に保障されるべきであるが、現状では実現できていない。本事業では、その教育実践を行うとともに、場の継続的な設置を目指して、行政への働きかけも行っていく。 漢字教室においては、漢字について知識を得、必要な漢字が理解できるようになることを目指す。そのために、生活場面で目にする漢字語から漢字を学び、語にまつわる情報を得たり、文化的背景を理解したりしながら、文字学習の方策を身に付ける。また、漢字を使って文を書くことを通して日本語の文を作る力を身に付けながら、自己表現力を育成する。学習環境面では保育を設け、文字習得のニーズが高い子育て中の外国人が参加できるようにする。さらに、漢字教室を見学者に公開することで、生活者のための漢字学習支援方法の普及を目指す。漢字教室で使用する教材は独自に作成し、文化庁NEWSで公開して、各地からの利用を可能にする。 養成講座においては、外国人の社会参加に繋げる文字教育を担う学習支援者を育成することを旨とする。外国人の文字教育、および外国人の社会参加の必要性について深く理解し、多文化共生社会を目指す中での文字学習支援ボランティアのあり方を考えることで、受講者自身の意識改革をもたらすことを目的として、そうした分野に見識のある外部講師を呼んで講座を行う。漢字学習支援方法の普及については、学習支援に当たる者が講座を受講する機会が少ない地域へ出向き、必要な人に必要な情報を届ける「出前」講座を行う。出前講座においては、漢字学習支援のスキルを学ぶにとどまらず、地域日本語教室を担うボランティアとしての姿勢を身に付けることにも留意する。受講者が講座で学んだことを実践し、結果を報告する機会を作り、振り返りを行うことで、よりよい活動につなげる。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	大阪市においては、外国人対象の基礎教育として公的機関により基礎レベルの日本語教室が開催されており、ごく初歩の日本語の知識と日常会話を学ぶことができる。しかし、文字に関しては生活言語を基本とした基礎レベルの文字教育を行う公的な教室がない。長年日本で生活するうちに流暢な会話能力を身に付けることは少なくないが、文字学習、特に漢字学習においては自然習得は望めないため、会話はできても読み書きができないという非識字の状態におかれてしまうことがかなり起きる。漢字学習をも基礎教育の一環とし、導入的な学習の機会を公的に提供することを求めて、教育委員会等自治体に働きかけを行ったが、即時の実現は困難であり、引き続き必要性を訴えていかねばならない状況である。 一方、民間の日本語学校は、生活言語が基本となっており、受講料も高価であるため、生活者にとって適当ではない。また、地域の日本語教室では、会話が中心の学習が行われており、漢字はあまり学習しないが、適切な指導がなされていないため、漢字学習の挫折につながっている。さらに教室で行われる漢字指導の多くが、日本語教育・漢字指導の専門家がプログラム策定や運営に関わることがないまま運営されている状況にある。学習環境面についても、保育がある教室は少なく、文字習得のニーズが高い子育て中の外国人が参加できない状況にある。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	1. 漢字教室 漢字学習の場として 日本人にとっても同様、外国人にとっても識字は社会参加に不可欠であるが、大人になってからの文字学習には困難が伴う。その困難を軽減し、漢字を学びやすくすることで、外国人の社会参加を促す学習方法を提案・実践した。教室においては、まずは身の回りの漢字語を認識し、理解し、生活に役立てることで、漢字学習への動機付けを行った。そのため、2回に1回のパソコンを利用する授業で、切り取って来た生活場면을パソコン画面に映し出し、場面中の漢字を認識し、漢字語の意味を理解できるように練習した。 また、保育所や学校、病院、仕事場、銀行、公的機関など社会生活において直面する場面では文字を通して情報を得ることが多くあり、書面による意思表示を求められる。保育所や学校からのお便り、銀行や公的機関での書類などを取り上げ、個人として自立して社会生活が送れるように、重要な文字情報へのアクセスを可能にしながら、それぞれの場所のシステムについて情報を提供し、また、その場で必要最小限のコミュニケーションができることにも留意した。 自律的、継続的な漢字学習のためには、漢字の字形や漢字の意味、漢字語の構成など、漢字に関する知識を知る機会を設けた。受講者のレベルに応じた簡単な作文も行い、文の中で漢字を使えるように練習しながら、受講者の自己表現を試みた。 地域の拠点として 漢字学習支援について知りたいとの要望があり、漢字教室の見学を受け入れた。さらに、メンバー各自の活動場所においても漢字学習の方法を実践し、「生活の漢字」のコンセプトの普及に努めた。 子育て支援および地域の多世代交流の場として 子育て中の外国人が参加しやすい時間帯に設定し、保育をつけることで、漢字を学習する機会を提供すると同時に社会参加の機会とした。ベラルーシからの受講者は、これまで自宅で子どもと過ごすのみの生活だったのが、この教室で初めて自分の時間が持て勉強ができたこと、また同じように日本で生活する外国人と交流できたこと、子育ての中で必要と感じていた漢字学習の機会を得られたことを修了式で話してくださった。子育てを卒業した世代の受講者たちからも助言があったり、大阪市民である保育士も育児経験や地域に関する情報量を生かし参加者に手厚いサポートを行った。 2. 養成講座 出前講座は、広島県福山市、滋賀県湖南市、兵庫県明石市、神戸市に出向いて各2回連続で行った。基本的に第1回にはボランティアとしての漢字学習支援のコンセプトを伝え、教材作成と教室での実践に関する講義・ワークショップを行った。その後受講者に各所属団体に実践してもらい、第2回に結果を発表してもらった。成果が得られたという報告があったと同時に、質問や困難についての報告もあり、そうした点についてはさらに解決方法を考えた。出前講座以外に単発の講座を3回行い、外国人の状況について理解を深め、社会のあり方、日本語支援のあり方を考える機会とした。 3. 教材作成 上記1. 漢字教室で使用する教材を作成した。漢字教室授業では指導者・補助者・受講者との協働で授業が進められていくが、提出教材はその部分を少し補い、地域のボランティアとの学習がしやすい形に整えた。標準カリキュラム案と併用できることを視野に入れ、カリキュラム案との対照表を付した。
事業の実施期間	平成30年6月～平成31年2月(9 か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

〔運営委員〕

1	新矢麻紀子	大阪産業大学教授国際学部教授
2	服部圭子	近畿大学生物理工学部准教授
3	新庄あいみ	大阪大学非常勤講師
4	棚田洋平	一般社団法人部落解放・人権研究所 事務局長
5	中村満寿央	一般財団法人ダイバーシティ研究所理事
6	川島孝子	元公益財団法人とよなか国際交流協会日本語教室アドバイザー
7	御子神慶子	一般財団法人海外産業人材育成協会日本語講師
8	橋本尚子	大阪市立総合生涯学習センター企画推進課企画推進係長
9	野村京美	大阪市立総合生涯学習センター企画推進課企画担当係長
10		



〔概要〕

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年6月15日 (金)	2.5時間	大阪市立総合生涯 学習センター	橋本、野村、新矢、中村、 棚田、川島、御子神	1. 会計関係 2. 役割分担、委員間・指導者・講師等連絡方法、関係各所 への連絡 3. 漢字教室準備(内容、担当講師、広報の方法、チラシの内容 等)
2	平成30年7月31日 (火)	2.5時間	大阪市立総合生涯 学習センター	新矢、棚田、新庄、川島、 御子神	1. 養成講座準備 広報の方法、連続講座の内容と講師、出前講座の内 容と講師、チラシの内容 2. 漢字教室スタートの状況
3	平成30年8月24日 (金)	2.5時間	大阪市立総合生涯 学習センター	新矢、棚田、川島、御子神	1. 出前講座日程、内容検討(第1回と第2回) 2. 連続講座講師依頼 状況
4	平成30年12月9日 (日)	2.5時間	大阪産業大学梅田 サテライト	新矢、棚田、川島、御子神	1. 漢字教室これまでのふりかえり、今後の予定 2. 養成講座申し込 み状況
5	平成30年12月22日 (土)	2.5時間	新長田	新矢、棚田、川島、御子神	1. 養成講座これまでのふりかえり、今後の予定
6	平成31年3月12日 (火) 9:30～12:00	2.5時間	大阪市立総合生涯 学習センター	服部、橋本、野村、中村、 棚田、川島、御子神	報告内容を検討した後、運営委員全員での運営委員会で最終報告と質 疑応答

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	大阪市総合生涯学習センターに、教室の優先受付、教室問い合わせ及び申し込みの受付など教室の運営管理面や外国人を対象とした 相談機関への仲介等で協力を得た。昨年度までの多文化共生センター大阪での「『生活の漢字』を考える会」による『生活の漢字』学習支 援事業で行って来た関連自治体等への働きかけを引き続き行った。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	事業運営方針の決定など、事業の根幹をなす事項については、棚田、御子神、川島、掛橋及び外部運営委員の新矢、新庄が行っ た。各メンバーへの連絡は棚田、御子神が行った。 漢字教室と教材作成において内容や講師への指示および講師間連携の統括は御子神が行ったが、広報および相談業務は棚田 が行った。漢字教室の指導は新庄、掛橋、小野木、川崎、御子神が行った。漢字教室の補助者を、新矢、川島、オーラヌット、掛 橋、小野木、掛橋、御子神が担当した。 養成講座の内容については棚田、新矢、新庄、川島、掛橋、御子神で検討し、講師の人選、講師との交渉、広報、講座運営を棚田 が主に行った。出前講座の講師は新矢、棚田、御子神、川崎が行い、補助者を新矢、棚田、御子神、川崎、小野木が行った。 実務的な作業(教室補助および会計事務)は川島、オーラヌット、小野木が担当した。文化庁との連絡はダイバーシティ研究所理事 中村を通して行い、大阪市総合生涯学習センターとの連絡は御子神が行った。
----------	---

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:生活者のための「生活の漢字」教室】										
目的・目標	1.日常生活において必要な漢字を認識できるようになること いわゆる「生活者としての外国人」は、日本語を生活の中で身に付けているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。 2.社会生活において読んだり書いたりすることが必要とされる書類の内容がわかり対応できるようになること 役所、病院、学校などの場面で必要な書類が理解できる。住所と名前は書けるようになることを目指す。 3.漢字学習のストラトジーを身に付けて自律して学習できるようになること 漢字学習継続のために必要な漢字に関する知識と漢字学習のスキルを身に付けることで、自律学習・継続学習を可能にする。									
内容の詳細	シラバスを主に生活場面で構成し、身の回りにある漢字語を学んでいった。そのため、パソコンを利用し、パソコン画面に生活場面を映し出して生活場面のどこに漢字があるか認識することから始め、学習した漢字を実際の生活の中で見つけて役立てられるようにした。子育て中の人でも参加しやすいように託児環境を整備し、必要に応じて保育所や学校で必要とされる漢字語や読み書きの習得をカリキュラムに加えた。 習熟レベルが一定ではない学習ニーズに対応するためには、30回という長期の教室開催を通して基礎力の養成を行った。クラスのなかで学習の遅れが見られる学習者、余裕がある学習者には補助者が対応し、継続的な参加をサポートした。「生活の漢字」普及の拠点として見学を受け入れる態勢をとっており、三重県国際交流財団からの見学者を受け入れた。また、大阪市生涯学習センターの協力を得、生活や今後の学習に関する情報などの提供を行った。									
実施期間	平成30年6月19日～平成31年2月5日				授業時間・コマ数		1回2時間×30回＝60時間			
対象者	漢字を学びたいと思っている者。簡単な日本語の会話が でき、ひらがな・カタカナがある程度わかる者。				参加者		総数47人 (受講者39人、指導者・支援者等8人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案のシラバスは生活場面で構成されているが、漢字学習についても同様なアプローチが必要である。カリキュラム案で取り上げられている場面について、漢字を認識することが生活の質の向上と自立した社会参加につながる場面も多いためである。クラスではそうした場面で目にする漢字語を取り上げて、その中で、関連情報として教材例集にとりあげられているような会話も学ぶことができた。									
使用した教材・リソース	オリジナル教材									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	6	12	0	0	0	6	1	0	0	1
	香港2人、台湾1人、イギリス2人、ロシア1人、スペイン1人、ベラルーシ1人、ウズベキスタン1人、イタリア1人、アメリカ2人、パキスタン1人									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者	補助者名	
1	平成30年6月19日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	17	・開講式 ・文字チェック ・ローマ字入力	1.開講式・オリエンテーション 2.ひらがなとかたかなの入力 3.文字チェック(ひらがな・かたかな・漢字)		御子神	川島・オーラヌット・掛橋	
2	平成30年6月26日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	28	・カタカナ ・ベーシックストローク	1.漢字のなかのカタカナを見つける 2.カタカナ復習、書き順に注意する 3.漢字の書き方 左→右、上→下、横→たて、漢字のハネ、ハライ等。漢字の中の知っている形を見つけて漢字を書く。 4.ごく短い文を読む。漢字と文型の確認。		御子神	川島・オーラヌット・小野木	
3	平成30年7月3日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	29	パソコン入力練習 日本地図、住所	パソコンによる日本語の入力と漢字への変換練習 住所:大阪府、兵庫県、各受講者の住んでいる市、各受講者の住所を入力		御子神	川島・オーラヌット・川崎	
4	平成30年7月10日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	25	・パソコン用語 ・カレンダー	1.パソコンで勉強するときによく使う言葉を学び実際にやってみる 2.カレンダーを見ながら、月日の読み方を知り、その月の行事についてタイプしたり、話したりする。		掛橋	川島・オーラヌット・小野木	
5	平成30年7月17日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	20	・カレンダー	先週パソコンで見たカレンダーの文字を読み方を確認しながら書く 漢字を使って短い文を書いてみる		掛橋	川島・オーラヌット・川崎	
6	平成30年7月24日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	16	駅	教室への経路。駅、大阪駅、梅田駅、西梅田駅、東梅田駅、JR、阪急、阪神、Osaka Metro、御堂筋線、谷町線、四つ橋線 自分が乗る駅、使う線、降りる駅を言う。 ○○駅で○○(線)に乗ります。○○駅で降ります。 書き練習:駅、大阪駅、阪急の3語		御子神	川島・オーラヌット・小野木	

7	平成30年7月31日 (火)9:45～11:46	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	13 駅	大阪の路線で見かける語彙を中心に電車に乗るときに必要な漢字を勉強する。実際の場面でも漢字が読めるように大阪市内で撮影した写真のなかの語彙を読む練習を行った。発展学習として学習語彙を使用した短文を読むことも行った。大阪駅、環状線、大阪の名所と利用する駅名、ホームで目にする漢字を取り上げた。書き練習は、駅、線、口、東西南北。	新庄	川島・オーラヌット・小野木
8	平成30年8月7日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	15 スーパー	パソコンで入力し、漢字と読み方を認識する。 1.「酒屋・花屋・薬屋」など町で見かける店の漢字 2.スーパーで見る漢字 ・目当ての物がどこにあるか見つける ・割引の表示 ・販売の単位と値段表示 ・授乳室の漢字と表示 3.レジで店員が使う表現	川崎	川島 オーラヌット 掛橋
9	平成30年8月21日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	12 食品表示	前回で学習した内容に加え、「豚肉・鶏肉・牛肉・牛乳・卵」の漢字を書く。アレルギー物質が原材料名などの記載から読み取れる。	川崎	川島、オーラヌット、小野木
10	平成30年8月28日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	16 料理	料理のレシピを読みたいときに使う、道具の名称、基本的な動詞を確認しパソコンで入力した。また、学んだ語彙が使用されている食品のパッケージや看板を見て読む練習を行なった。	小野木	川島、掛橋、川崎
	平成30年9月4日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室		台風で中止		
11	平成30年9月11日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	17 災害	台風で災害が起こった時に、テレビやインターネットで必要な情報を拾うための漢字を学ぶ。インターネットでの情報検索をやってみる。さらに災害時に交通機関が止まった時等に表示される漢字を知る。	掛橋	川島、オーラヌット、御子神
12	平成30年9月18日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	23 災害	第12回で学んだ漢字を書いてみて、認識を高める。さらに台風だけでなく地震についても情報を得られるようにする。	掛橋	川島、小野木、オーラヌット
13	平成29年9月25日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	15 病院	病院、医院、クリニック、診療所。内科、小児科、外科、歯科。診療時間、休診日等を読む。休日急病診療所。多言語問診票のサイトを紹介。	御子神	川島、掛橋、川崎
14	平成29年10月2日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	18 病院	病院、医院、クリニック、診療所・・・前回pcで見たことばを漢字で書く。写真のどこにあるか、さがす。 歯科、耳鼻科(耳鼻咽喉科)、眼科と関連のことば(歯が痛い、耳が痛い、花粉症等。科、歯科、耳鼻科、眼科を書く。	御子神	川島、オーラヌット、川崎
15	平成30年10月9日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	16 家電	日常生活に使う家電の名前と、家電に表記されている漢字を確認する。冷蔵庫、洗濯機、掃除機、トイレ、停止、洗濯、強弱など。	川崎	川島、オーラヌット、小野木
16	平成30年10月16日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16 家電	家電の名前と読み方を確認。 家電でよく見る漢字を書く練習「強、弱、入、切、止」など。 「電子レンジ、電気、電話、電源」など「電」という漢字が使われている関連語彙を提示し「電」という漢字を確認した。	川崎	川島、御子神、オーラヌット
17	平成30年10月23日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	16 住所	居住地について地図を見ながら国→地方→都道府県→市町村→区まで確認の漢字と位置を確認した。また最後に観光スポットやイベントを紹介した。	掛橋	川島、オーラヌット、川崎

18	平成30年10月30日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15	住所	先週の復習をしながら、居住地について地図を見ながら国→地方→都道府県→市町村→区まで確認の漢字と位置を確認した上で、自分の住所を各自書く練習をした。それぞれのリクエストに応じて家族の名前の書き方を個別に指導する場面もあった。また学習者同士で、互いの国や居住地を地図をはさんで紹介し合うなどの会話も取り入れた。	掛橋	川島、オーラヌット、小野木
19	平成30年11月6日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	23	銀行(ATM)	銀行の名前、通帳、口座、ATM画面の言葉の読み確認し、ATM引出しの操作手順の内容、語彙の確認を行った。	小野木	川島、オーラヌット、川崎
20	平成30年11月13日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	20	銀行(ATM、申込書)	銀行の引き出しの操作手順の確認、書き練習を行った。銀行開設時の必要な物、申込書の書き方を確認した。	小野木	川島、オーラヌット、掛橋
21	平成30年11月20日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	19	洗剤	衣料用洗剤、食器用洗剤、トイレの洗剤、お風呂の洗剤。 容器に書かれている漢字(品目:洗濯用合成洗剤、他。用途:野菜、果物、食器、調理用具用、スポンジ除菌、他。液性:中性、弱アルカリ性)。 衣類についている洗濯方法等の表示。	御子神	川島、新矢、オーラヌット
22	平成30年11月27日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	21	年賀状	年賀状作成のための言葉や表現などの漢字(年賀、明けましておめでとうございます、様など)縦書きの練習、表書きの住所、氏名を年賀状に記入。	川崎	川島、オーラヌット、小野木
23	平成30年12月4日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	15	年賀状	年賀状のレイアウトをプリントアウトし、年賀状作成。(年賀、明けましておめでとうございます 等) その後、干支、亥、切手、郵便局、平成などの漢字、メールの年賀状について。	川崎	掛橋、川島、 オーラヌット
24	平成30年12月11日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	22	料理	料理の基本的な動詞を確認し書き練習を行った。食品パッケージの写真を見て読む練習。料理のレシピを読み、材料・作り方を確認した。	小野木	川島、川崎、オーラヌット 原(保育)
25	平成30年12月18日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	14	学校	日本の学校(保育所から大学まで)の語彙、学校設備や時間割に係る語彙を確認。日本の教育制度を紹介した。	小野木	川島、掛橋、川崎
26	平成31年1月8日 (火) 9:45～11:46	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16	学校	小学校からもらう「個人懇談会のご案内」を例に、お便りの何処を重点的に読むか、内容理解に必要な漢字を学び、希望日時を回答できることを目標にした。	小野木	川島、掛橋、川崎
27	平成31年1月15日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	14	漢字を見つけよう	普段から使用している総合生涯学習センター内にある漢字を教材にとして取り上げた。教室、受付、立入禁止、男性用、西側など。最後に、学んだ漢字が施設内のどこにあるのかを実際に探すというオリエンテーリングを実施した。	川崎	川島、御子神、オーラヌット
28	平成31年1月22日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16	作文を書こう	家族に関する漢字(夫、妻、娘、息子、父、母など)を導入し練習した後、作文例を読んでから、自分の家族を紹介する作文に取り組んだ。またその作文を学習者同士で紹介する活動を行った。	掛橋	川島、オーラヌット、小野木
29	平成31年1月29日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	16	振り返り	評価シート記入、個別フィードバック、写真から漢字を習った漢字を探す、ベーシックストロークの復習	掛橋	川島、オーラヌット、川崎
30	平成31年2月5日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	13	修了式	アンケート記入、修了式	川崎	川島、オーラヌット、掛橋

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例

【第4回 平成30年7月10日】パソコン用語/カレンダー
メディア教室でパソコンを使いながら漢字を学ぶ時必要な用語として、「マウス」「クリック」「ドラッグ」「ファイル」などを導入しながら、実際に操作を行った。またルビの付け方など、日本語入力に独特な、また知っておくと便利な機能を紹介した。今年はパソコンに慣れている人が比較的多かったが、初めての人や不慣れな人には複数の補助者がついていてのことから(必要な場合は母語でのサポートも交えて)丁寧にゆっくりとサポートでき、タイピングへの抵抗を和らげることができたのではないだろうか。パソコンを使い慣れている、「漢字やカタカナに変換の方法を初めて知った」という声もあった。またパソコンを使うことで、複雑な漢字は書くことはすぐには難しくても、表記がわかれば、自ら文字として出力できる。また促音や撥音、長音のタイピングが間違っていると正しく変換できないことから意識付けのきっかけにもなっていた。カレンダーの学習では、写真を多用し、漢字を見つたり、入力したりする活動と併せて、各月の季節や行事も紹介し、次の「書く」クラスに興味を持って取り組めるように工夫した。



○取組事例

【第8回平成30年8月7日、21日】スーパー・食品表示
スーパーなどで見る食品に関する漢字や、お買い得情報などに関する漢字・言葉を2回の講座で取り上げた。「鶏・豚・牛」など肉の種類、「酒」に加え、アレルギー物質に関する漢字や言葉を食品表示から見つけ出すことは宗教上や、子育てにも必要不可欠である。また、「お買い得・〇割引・半額」などもある有益な情報として取り上げた。受講者にとって買い物をする、食品を選ぶことは毎日の生活に直結しており、スーパーの中で買いたい食品や必要な情報だけでもすぐに探せるよう、見るだけでなく書く練習も合わせて行うことで漢字の形や意味がより理解できるよう工夫した。このように、教室で学んだことが生活の中ですぐに生かせることを、教材作成において常に心掛けている。食品に関するテーマは受講者にとって身近なテーマであったため、受講者それぞれの経験談や自国との違いなどをテーマに会話を広げることができた。



(2) 目標の達成状況・成果

目標の達成状況を検証するため、アンケートと診断テストを用いた。アンケートは、第29回出席の受講者に対して実施し、15名分を集めた。診断テストは、開講時に一度実施しており、同じ内容で終了時にも実施することによって、この漢字教室に参加した結果、漢字の習得が進んだかどうかを評価した。

漢字教室の第1の目標は、日常生活において必要な漢字を認識することができることであるが、アンケートには、「生活の場で見える漢字がわかるようになった」「勉強が役に立っている」という意見が多く寄せられた。診断テストからも、見て意味がわかる漢字の言葉が増えたという結果が多く見られた。漢字を書くことに関しては、住所以外については、覚えて書くことは求めないこともあり、書くことが好きであるにもかかわらず、見ないで書ける漢字はそれほど増えていない受講者も見られた。全体的に日本語の会話力が低かったのが今回の特徴の一つであったが、特に、日本語での意志伝達が困難という、本来想定している対象とは言えない受講者の場合は、「テスト」のような形で試されると、実際の場面がないため、漢字が思い出せないといった傾向があった。しかし、習った漢字が買い物のときにわかった、駅の漢字がわかった、という報告はあり、英語やタイ語による補助と、保育があるという環境に助けられて、最後まで教室に参加し、生活のその場ではわかる漢字ができたり、日本社会への理解を深めてもらうことができたと思う。教室の第2の目標は、社会生活において読んだり書いたりすることが必要とされる書類の内容がわかり、対応できるようになることであり、銀行口座開設申し込みや学校のお知らせなどを取り上げた。こういったことを書類に書くか、また、「お知らせ」ではどこに大切な情報が書いてあるか、ほんの入り口ではあるが、最低限必要な漢字学習と、そういったことにまつわる情報を学ぶことができたと思う。また、社会生活において書くことを求められる「住所」については、全員がほぼ書けるようになった。教室の3つ目の目標は、漢字学習のストラテジーを身に付けて自律的に学習できるようになることである。受講したベラルーシ出身の1名は4年前に来日し、日常のコミュニケーションは日本語でできるものの、漢字学習は絶対無理と思っていたとのことであるが、漢字学習の考え方、方法を身に付けたことで、今後の自律学習も可能になっていくと思われる。同様な受講者が何人かいる一方、来日間もない人など、日本語での意志伝達が困難という状況にあると、まだ漢字学習へのレディネスが十分ではなく、今後も助けが必要であると思われる。全体としては、本来の対象にほぼ当てはまる受講者に関しては、上記3つの目標について成果があったと考える。

(3) 今後の改善点について

・漢字学習に大切なベーシックストローク(基本的な画の書き方)がなかなか身に付かない受講者が何人か見受けられた。ひらがな・カタカナを覚えるとき、自己流に書いていたようであり、「口」「ウ」「シ」など漢字のパーツになっているカタカナが正しく書けなかった。ひとつには書き方にあまり注意していないこともある。「ベーシックストローク」を取り上げて授業で扱った後にも、各授業や各漢字の学習で、繰り返し確認するプロセスを入れ、ある程度のストロークを身につけてもらうようにしたい。また、カタカナが最後まで全部は書けない受講者もあり、漢字学習の中にカタカナ語も織り交ぜて、必要性を意識してもらいたい。
・学習した漢字を実生活で役立てるというのを実際にやってみる活動(フィールドトリップなど)を取り入れることで、漢字学習への動機づけをさらに高め、自律学習・継続学習につなげたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：生活者のための日本語学習支援者養成講座 生活者のための漢字学習支援者養成出前講座】											
目的・目標		当事業で実施する日本語教育(生活者のための漢字学習)プログラムの理念・実践の周知と拡充									
内容の詳細		受講者が、生活者としての外国人に対する日本語学習支援にかかわる理念・背景について学ぶことで、言語保障としての日本語学習支援活動の重要性について理解し、実践につなげる。ここでいう言語保障とは、学習者が言語習得を通じて生活向上や自己形成、社会参画を実現することで、生活や人権の保障につながることを意味している。このような言語保障という観点から、日本社会への「適応」ではなく「参画」をめざす日本語習得のありようについて学び、日本語学習支援の実践をとらえなおすことを当講座の目的とする。講座の具体的な内容は以下のとおりである。 【第1回】文化保障としての言語教育 山田泉 【第2回】言語保障としての日本語教育 春原憲一郎 【第3回】生活者としての外国人に対する「読み書き」学習システムの重要性 衣川隆生 当事業で実施する日本語教育プログラム「生活者のための漢字学習支援」を、他地域でもひろめるために、漢字学習支援の理念や実践などについて学ぶ支援者養成講座を出前講座として実施する。講座の内容は以下のとおりである。参加者は、2回の講座をふまえて、実際の学習支援活動を実施することとし、その報告と評価を第3回の講座として設定することで、講座受講による変容と定着の度合いをはかる。 【第1回】日本における識字問題とは？ 棚田洋平、「生活の漢字」とは？～その理論的背景について 新矢麻紀子 【第2回】「生活の漢字」の教授実践 御子神慶子・新庄あいみ 【第3回】参加者による実践活動の報告と評価 新矢麻紀子・御子神慶子 なお、ともに、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告案)』(文化審議会国語分科会日本語教育小委員会、平成29年12月25日)で指摘されている、「日本語学習支援者」や「日本語教員【初任】(生活者としての外国人)」に求められる資質・能力に応じた、講座内容を企画している。									
実施期間		平成30年10月27日、12月9日、31年1月26日 平成30年8月26日、9月28日、10月14日、10月20日、11月2日、12月8日、12月9日、12月22日、平成31年1月19日			授業時間・コマ数		各回、土曜日 13:30～16:00(2.5時間)×3回 計7.5時間 出前講座受講団体の指定する日時(2回) 計22.5時間				
対象者		地域日本語教室で実際に支援活動にあたっている者、もしくは支援活動をはじめようと考えている者			参加者		総数 272 人 (受講者262人、指導者・支援者等 10人)				
カリキュラム案活用		カリキュラム案の「生活者の必要」「生活者の視点」というコンセプトは、本事業で行う漢字学習支援においても同様である。本講座は漢字学習に特化しているが、漢字を抽出する場面は、カリキュラム案が目標としている場面と共通しているので、カリキュラム案を受講生に紹介し、参考にしてもらった。									
使用した教材・リソース		『新にほんご 生活の漢字 漢字みーつけた』(アルク、2011年)、各講師作成の自主教材 等									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			2								
養成・研修の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年8月26日(日) 13:00～16:30	3.5	湖南省商工会 サンライフ甲西	30	どう考え、どう実践しますか ～外国人の漢字学習支援～	本講座の前提となる、地域日本語教室の理念や現状、人権保障という観点からの日本語学習支援の意義について学ぶ。 「生活者としての外国人」にとって継続できる漢字学習とは？ 適切なシラバス・教材、漢字学習が楽になるコツ。 漢字学習に伴う生活範囲の拡大、自己イメージの変化。 漢字探しの活動、教材作成。		棚田 御子神	棚田 御子神 川崎		
2	平成30年9月28日(金) 13:15～16:45	3.5	明石市国際 流協会	18	どう考え、どう実践しますか ～外国人の漢字学習支援～	本講座の前提となる、地域日本語教室の理念や現状、人権保障という観点からの日本語学習支援の意義について学ぶ。 「生活者としての外国人」にとって継続できる漢字学習とは？ 適切なシラバス・教材、漢字学習が楽になるコツ。 漢字学習に伴う生活範囲の拡大、自己イメージの変化。 漢字探しの活動、教材作成。		棚田 御子神	棚田 御子神 小野木		

3	平成30年10月14日 (日) 10:00～12:00	2.0	湖南省商工 会サンライフ 甲西	13	「生活の漢字」の実 践のふりかえり ～教室活動に取り入 れてみよう～	参加者によるシェア・報告 ・教材を作って ・教材を使って 講師によるコメント 漢字学習を普段の活動に組み入れるに は？	御子神 棚田	川崎
4	平成30年10月20日 (土) 13:30～17:00	3.5	神戸定住外 国人支援セン ター	12	どう考え、どう実践し ますか ～外国人の漢字学 習支援～	本講座の前提となる、地域日本語教室の 理念や現状、人権保障という観点からの日 本語学習支援の意義について学ぶ。 「生活者としての外国人」にとって継続で きる漢字学習とは？ 適切なシラバス・教材、漢字学習が楽になる コツ。 漢字学習に伴う生活範囲の拡大、自己イ メージの変化。 漢字探しの活動。教材作成。	棚田 御子神	棚田 御子神 川崎
5	平成30年10月27日 (土) 13:30～16:00	2.5	大阪産業大学 梅田サテライト	36	文化保障としての言 語教育	多文化共生社会を実現するためには何が 必要なのか？ 地域日本語教室に求められ る役割とは？ 「多文化主義」「多文化教育」 という観点から、多文化共生社会のあり方 について、参加者間での話し合いも入れな がら学んだ。	山田泉さん	棚田 新矢 川島 掛橋 小野木 川崎 御子神
6	平成30年11月2日(金) 13:15～15:15	2.0	明石市国際交 流協会	15	「生活の漢字」の実 践のふりかえり ～教室活動に取り入 れてみよう～	参加者によるシェア・報告 ・教材を作って ・教材を使って 講師によるコメント 漢字学習を普段の活動に組み入れるに は？	新矢 棚田	棚田 新矢 小野木
7	平成30年12月8日(土) 16:00～18:30	2.5	福山市市民参 画センター	20	どう考え、どう実践し ますか ～外国人の漢字学 習支援～	「生活者としての外国人」にとって継続できる 漢字学習とは？ 適切なシラバス・教材、漢字学習が楽になる コツ。 漢字学習に伴う生活範囲の拡大、自己イ メージの変化。 漢字探しの活動。教材作成。	御子神 川崎	川崎 御子神
8	平成30年12月9日(日) 13:30～16:00	2.5	大阪産業大学 梅田サテライト	54	言語保障としての日 本語教育	「生活者としての外国人」に必要な日本語教 育とは？ 言語保障という観点から、地域の 日本語教室で求められる日本語学習支援 のあり方について、参加者間での話し合い も入れながら学んだ。	春原憲一郎 さん	棚田 新矢 川島 掛橋 小野木 川崎 掛橋 小野木 川崎 御子神
9	平成30年12月22日 (土) 13:30～16:00	2.5	神戸定住外国 人支援セン ター	9	「生活の漢字」の実 践のふりかえり ～教室活動に取り入 れてみよう～	参加者によるシェア・報告 ・教材を作って ・教材を使って 講師による質問への回答とコメント 漢字学習を普段の活動に組み入れるに は？ 漢字語の習得からリテラシーの獲得に向け て	新矢 棚田	小野木 新矢 棚田 御子神
10	平成31年1月19日(土) 16:00～19:00	3.0	福山市市民参 画センター	15	どう考え、どう実践 しますか ～外国人の漢字学 習支援～	参加者によるシェア・報告 ・教材を作って ・教材を使って 講師による質問への回答とコメント 漢字学習を普段の活動に組み入れるに は？ 漢字語の習得からリテラシーの獲得に向け て	新矢 棚田	棚田 新矢
11	平成31年1月26日(土) 13:30～16:00	2.5	大阪産業大 学梅田サテラ イト	40	生活者としての外 国人に対する学習 支援システムの重 要性～「読み書き クラス」の実践より	「とよた日本語学習支援システム」では、地 域コミュニティの維持・向上を目的として、在 住外国人が円滑な日常生活を営むための 日本語能力の習得を支援する、包括的なシ ステムの構築・普及がめざされている。その 一環で実施されている「読み書きクラス」の 実践を中心に、学習支援システムの重要性 について、参加者間の話し合いも入れなが ら学んだ。	衣川隆生さ ん	棚田 新矢 川島 掛橋 小野木 川崎

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○ 取組事例 養成講座

今年度の養成講座は、「生活の漢字」実践の理念的背景を学ぶことを目的として開催した。山田泉さん、春原憲一郎さん、衣川隆生さんからそれぞれにご報告いただき、また、各回ともに、講義内容に関する参加者どうしによる話し合いの時間も設けられ、人権や権利の保障という観点から、生活者としての外国人に対する日本語支援のあり方について参加者間で考えを深めることができた。



○ 取組事例 出前講座

出前講座は、研修機会の少ない遠隔地に出かけ、「生活の漢字」の理念と学習支援方法に関して講義とワークショップを行い、人材を養成するものである。今年度は4地域(滋賀県湖南市、兵庫県明石市、神戸市長田区、広島県福山市)にて、1地域2回の講座を開催した。今年度については、「講座の成果」、すなわち「講座の内容について実際に教室活動に取り入れられているかどうか」を把握することも目的とした。そのため、第1回に「生活の漢字」実践にかかわるレクチャーをおこなったうえで、実際のそれぞれの教室活動でその実践を取り入れてもらい、第2回に実践をしてみてものふりかえりと評価を実施するという構成とした。

実際に教室活動に取り入れてみることで、「講座の成果」を把握することができ、受講者にとっては実践の意義や課題について実感することにつながったとおもう。ただ、受講者の中には、実践に取り入れることが難しかった者もあり、「話を聞く」だけの単発の講座に終わらない工夫がより求められる。



(2) 目標の達成状況・成果

各回の講座終了後にアンケートを実施し、受講者の講座内容に対する評価や理解度、今後の日本語支援活動への影響について把握することに努めた。アンケート結果を見る限りでは、各回の講座内容に対する評価、理解度はおしなべて肯定的な意見が多く、本講座の目的・目標を達成できたと思われる。また、養成講座とは別途、出前講座を実施することで、講座への参加の機会をより多く設定することができた。

(3) 今後の改善点について

養成講座については、「多文化共生」「言語保障」というひろい内容であり、また時期的にもタイムリーなテーマ設定であったためか、各回の参加者は、地域日本語教室の支援者のみならず、国際交流協会職員、行政職員、大学院生や研究者、会社員、主婦など幅広く、参加者数も各回40～50名程度と予想以上に多かった。そうした多様な参加者層が参加していたこともあり、講師の講義内容のみならず、参加者間のやりとりを通して学び合いがあったようだ。

出前講座については昨年度までの反省をもとに、「講座の成果」を把握するような構成にしたものの、講座で学んだことを実際の教室活動に取り入れる受講者が各団体・教室ともに思った以上に少なく、第2回の「ふりかえりと評価」の進行が難しかった。また、予算の都合上、一部の経費(講師等の交通費)を受入先の団体の負担とせざるをえなかったが、それにより受講をためらう団体・教室もあった。

なお、・ともに、予算の都合上、一部の補助者の謝礼・交通費については支払うことができなかった。の養成講座については参加費の徴収、の出前講座については受入団体への一部経費負担を求めることを検討する。

日本語教育のための学習教材の作成 【 教材の名称 : 生活の場面から文字を学ぶ 】			
目的・目標	漢字学習に興味を持ち、学習を継続することを可能にするため、生活に必要な情報や役に立つ情報が得られる漢字語を学ぶ教材を作成する。生活場面に基づく標準カリキュラムとの併用もできるようにする。		
内容の詳細	・構成は場面シラバスとし、生活の場面から学習漢字を抽出した。 場面例)スーパー スーパーの掲示、半額などの割引の表示、食品表示(アレルギー表示等) 学校 学校設備、時間割、お便り等 銀行 銀行名、通帳、ATMの画面等 ・写真中の文字・漢字を認識し、その場面にある漢字を学習するようにした。 ・お便りなどでは、必要な情報がどこにあるかを学び、情報を得るために最低限必要な漢字を学習するようにした。 ・字形の認識、意味のパーツ(部首)など、漢字学習の考え方をイントロダクションと復習に入れた。 ・基本的にはボランティアなど、パートナーといっしょに学習することを想定した。		
実施期間	平成30年6月5日～平成31年2月5日	作成教材の 想定授業時間	1回 2.5時間 × 24回 = 60時間
対象者	日本で生活している外国人。日本語で簡単な会話ができ、読み書きを学びたい人。	教材の頁数	184ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案では、生活場面について主に会話が扱われているが、文字には重点が置かれていない。カリキュラム案に、文字という視点から必要な支援をプラスすることを考え、そうした使い方が可能にできるように、「標準カリキュラムとの対照表」を付した。		
事業終了後の教材活用	養成講座では、受講者にNEWSを紹介し、各教室や活動場所での活用を勧めた。各メンバーが所属する地域活動場所での活用を図る。外部講座等でも紹介する。		
成果物のリンク先	文化庁NEWS		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

地域に根ざして生活する外国人が文字を獲得することによって、より広く、より深く社会に参加していき、社会の多様性に資することを目標として、漢字学習支援を行う。

日常生活においては、文字を通して情報を得ることが多くあり、また、書面による意思表示を求められる機会も多い。ゆえに、十全な社会参加を可能にするには、必要最低限の文字が認識でき、理解でき、使用できるようになるための文字教育が不可欠である。これは基礎教育として公的に保障されるべきであるが、現状では実現できていない。本事業では、その教育実践を行うとともに、場の継続的な設置を目指して、行政への働きかけも行っていく。

漢字教室においては、漢字について知識を得、必要な漢字が理解できるようになることを目指す。そのために、生活場面で目にする漢字語から漢字を学び、語にまつわる情報を得たり、文化的背景を理解したりしながら、文字学習の方策を身に付ける。また、漢字を使って文を書くことを通して日本語の文を作る力を身に付けながら、自己表現力を育成する。学習環境面では保育を設け、文字習得のニーズが高い子育て中の外国人が参加できるようにする。さらに、漢字教室を見学者に公開することで、生活者のための漢字学習支援方法の普及を目指す。漢字教室で使用する教材は独自に作成し、文化庁NEWSで公開して、各地からの利用を可能にする。

養成講座においては、外国人の社会参加に繋げる文字教育を担う学習支援者を育成することを目指す。外国人の文字教育、および外国人の社会参加の必要性について深く理解し、多文化共生社会を目指す中での文字学習支援ボランティアのあり方を考えることで、受講者自身の意識改革をもたらすことを目的として、そうした分野に見識のある外部講師を呼んで講座を行う。漢字学習支援方法の普及については、学習支援に当たる者が講座を受講する機会が少ない地域へ出向き、必要な人に必要な情報を届ける「出前」講座を行う。出前講座においては、漢字学習支援のスキルを学ぶにとどまらず、地域日本語教室を担うボランティアとしての姿勢を身に付けることに留意する。受講者が講座で学んだことを実践し、結果を報告する機会を作り、振り返りを行うことで、よりよい活動につなげる。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

漢字教室及び養成講座の受講生に実施したアンケート結果及び作成した教材から、本事業における目標である「日常生活において必要な漢字を認識すること」とまた「漢字学習支援者の養成」は達成できたと思われる。「自律して学習することができるようになること」については方向付けは行ったものの、受講者中何人かはもう少し支援が必要な状況ではある。アンケートの集計結果は別に添付した通りである。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

作成した教材に、標準的なカリキュラム案に関連する項目がある場合はそれを示した。また養成講座にて受講生に紹介し、活用方法を考えた。標準的なカリキュラム案について気づいた点は、標準的なカリキュラムは生活場面にについて様々なケースが挙げられているので参考になるが、会話の習得が主であり、読み書きについては触れられていない。今後は文字習得の側面においても標準的なカリキュラムを作成する必要があると考えられる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

大阪市立総合生涯学習センターと運営面で連携し、受講生の募集、教室の確保等、幅広い面で協力を得た。

漢字教室受講者が本講座終了後に居住地域の日本語教室で継続的に学習ができるように、大阪府内の日本語教室一覧を受講者に配布した。また、養成講座の受講生の活動先の教室にも参加できるように、橋渡しを行った。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

大阪市内の識字・日本語教室と近隣の市の国際交流センターにチラシを郵送した。また、当事業運営メンバー各自の関係先でも配布した。

多文化共生センター大阪・大阪市立総合生涯学習センターのホームページで広報した。

本事業での実践を参考にしたいということで、見学者を受け入れた。(三重県国際交流財団)

漢字学習支援を含めた講座実施の依頼があり、本事業外で研修の講師を務めた。(豊中四中夜間学級)

(6) 改善点、今後の課題について

漢字教室においては、周知が難しかった。教室開始後、受講者が友達を連れてくることもよくあったので、必要な所に情報が届けば、希望者は多いのではないかと。周知の方法を引き続き検討し、必要な人に情報が届くように考えたい。

養成講座においては、梅田での3回の講座と、4団体への出前講座を行った。出前講座では2回の講座の間に各受講者に各自の教室で漢字活動を実践してもらい、2回目で発表とフィードバックを行ったが、実践できた人が少なかった団体もあった。活動の相手のニーズがなく、普段の活動に漢字学習を組み入れられなかったケースもある。受講者への課題についてより実践しやすい形、助言等を考えたい。

事業全体については、常時教室が設置できないことが課題である。今後は単発的な事業ではなく、継続的に実施できるような形態が必要ではないかと思う。そして将来的には、諸外国のように、定住外国人が無料が格安で生活のための日本語を学べる公的な教室の設置が望まれる。特に本事業の漢字教室に参加する学習者は日本人の配偶者が多く、今後も日本に住み続ける予定の人々である。このように日本社会の一員として生活する外国人のために生活に必要な日本語を学ぶ教室が求められていると感じた。

(7) その他参考資料

1. 漢字教室チラシ
2. 養成講座チラシ